

鳥羽市水産研究所を核とした 「とばうみ」再生計画

鳥羽市水産研究所は昭和39年の開設以降、漁業者に密着した研究所として、藻類の種苗生産や研究などに取り組んできました。

このたび、施設の小浜町への新築移転とともに『鳥羽市水産研究所を核として「とばうみ」再生計画』が国の地方創生拠点整備交付金の採択を受けましたので、その内容についてお知らせします。

今後は施設の建設を進め、恵みある水産資源を増やすことで持続可能な漁業を目指していくほか、さまざまな分野との連携を強化することで生産力を向上させて、漁業者の所得向上を図り、他産業も含めた地域経済の発展を目指していきます。

農水商工課水産係 ☎ 25 1167

現状と課題

鳥羽市水産研究所は、昭和39年に坂手島に開設して以降、藻類（クロノリ・ワカメなど）の種苗生産を中心に、藻場造成などの調査研究や藻類の養殖における現地指導など、漁業者のみなさんと一緒に取り組んできました。

現在の鳥羽市水産研究所は、これまでも必要に応じて施設修繕を行ってきましたが、経年劣化による老朽化が見られるようになってきました。

また近年は、さまざまな研究をほかの団体と連携して行う機会が増えてきたことから、研究所へのアクセス面を配慮する必要性も高まり、小浜地区へ新築移転することを決定しました。

地方創生の実現に向けて

鳥羽湾周辺は、比較的浅い岩礁部分が広く続くことから藻類の生育に適しています。そのため、多種にわたる質が高く、流通・消費が可能な量の藻類を安定的に供給できる県内随一の海域です。現に、本市はクロノリやアラメ

といった藻類の主要な産地であるほか、養殖ワカメについては、県内収穫量のほぼ100%を占めています。また、アワビやイセエビ、サワラといった高級食材も多く漁獲され、その水産資源が観光業の発展にも大きく寄与しています。

しかし、生産・採取に取り組む漁業者の高齢化や環境の変化などによる漁獲量の減少は鳥羽の漁業において深刻な問題となっています。

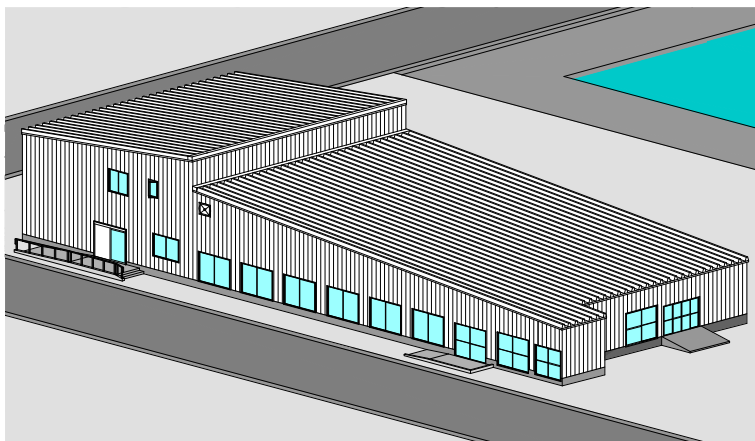
これからは高齢化に対応できる生産体制や、環境変化に即した資源管理のあり方などについて、漁業者が長年培ってきたノウハウに加え、科学的なアプローチをさらに強めていく必要があります。

漁業が主要産業の一つである本市にとって、日々変化する漁業現場の状況を把握し、専門知識と経験、機動力を持った水産研究所の役割は、今後ますます大きくなっていくものと考えます。



建設予定地の小浜漁港

出典：三重県共有デジタル地図撮影成果（平成29年）



新設する鳥羽市水産研究所のイメージ図



藻類の種苗生産



漁業現場での実践



小中学校への出前授業



藻類研究の推進

目指すまちの将来像

鳥羽の海は、広大な森林を背後に持つ木曾三川などのミネラルを豊富に含んだ伊勢湾の海水と、熊野灘を北上する黒潮の潮流がぶつかり合う好漁場であり、豊かな水産資源に恵まれた世界に誇れる海です。鳥羽市水産研究所がこれまで培ってきた藻類研究の経験や知見を最大限に発揮していくためにも、研究所を新設することで研究機能の強化を図り、「鳥羽の海」が持つ強みを大学やほかの研究機関などと連携して研究するために、多分野の人々による交流を創出する地域密着型水産振興拠点として発展させていきます。

鳥羽の海が持つ強みを活かす

本計画では、鳥羽市水産研究所を中核として、鳥羽の海が持つ「強み」を最大限に活かすため、次の7つのキーワードにより、本市の活性化につながるさまざまな事業展開を図っていくこととします。

鳥羽の「海」の強みを活かす7つのキーワード

<p>研究拠点</p>	<p>近隣には、三重大学水産実験所、名古屋大学臨海実験所、鳥羽商船高等専門学校、国立増養殖研究所などの多くの教育・研究機関が集積していることから、これらの機関との連携をより深め、地域課題の解決はもとより、海藻を始めとした水産物を国全体、さらには世界に認識させる力を引き出していく取り組みにつなげていきます。</p>
<p>生産向上</p>	<p>ブランド力のある高品質な海藻種苗の生産に取り組み、生産性の向上を目指します。また、稼ぐ力を蓄え、持続可能な漁業につながるような研修の機会を設け、漁業の事業継承を目指すほか、漁業者が新たな加工品を試作する場としての利用促進も図ります。</p>
<p>現実実践</p>	<p>これまで培ってきた知見や、共同研究により新たに得た成果などを漁業者などに提供し、現場での実践につなげていきます。また所内に併設する研究室を活用し、漁業者向けの研修会を開催するなど、より漁業者に寄り添った取り組みを進めていきます。</p>
<p>教育拠点</p>	<p>市民団体や小中高等学校の視察を受け入れ、本市が誇る水産産業を幅広く発信し、将来を担う子どもたちの人材育成につなげていきます。また、大学の長期休暇を活用し、大学生の研修を積極的に受け入れ、大学生の研究テーマなどに関与していきます。</p>
<p>情報発信</p>	<p>鳥羽の水産産業を広く発信し、多くのかたがたに知っていただく機会を創出するため、所内に海藻に関するさまざまな資料を掲示するほか、資料室に図書館的な役割を持たせることで、さまざまな情報を知り得る情報発信拠点としての役割を担っていきます。</p>
<p>観光振興</p>	<p>研究所内の設備や研究内容の様子、研究員のアカデミックな知識などを披露できる場として、政策観光や産業観光を促進させ、旅行エージェントとタイアップし旅行商品を造成するなど、漁業と並ぶ主要産業である観光業の振興に寄与していきます。</p>
<p>多分野連携</p>	<p>そのほか、スポーツ、芸術、健康、美容など、海藻が持つ可能性を多様な主体と共に見いだしていき、生産性の向上や地域経済の醸成につながるような取り組みを多分野連携により推進していきます。</p>